

# 獣医教育初の国際会議

## パリで10月 役割拡大に対応

家畜の国際的な衛生基準を定める国際獣疫事務局(OIE)が10月、今後の獣医学教育について検討する初の国際会議をパリで開く。食の安全や人獣共通感染症など獣医師への社会的な要請が増える中、これらの問題に対応できる人材を各国が確保するため、獣医学教育の「国際標準」を議論する。

は、家畜の病気予防と治療が中心だった。しかし牛海綿状脳症(BSE)や新型インフルエンザの発生などの人獣共通感染症対策や食の安全など人の健康、暮らしにかかわる問題が相次ぎ、獣医師の果たす役割が広がっている。家畜へのストレスや苦痛を減らす「動物福祉」の取り組みも重要な課題だ。

学部長や研究機関の責任者らを集める会議を計画。3日間の会議では「人獣共通感染症」「食の安全」など7部門に分かれ議論する。

日本も現在、文部科学省が獣医学教育の改革を検討しており、OIEの議論は国内の動向にも影響を与えそうだ。会議に参加する山

内一也東京大名畜教授(ウィルス学)は「獣医学教育に欠けている問題を議論する会議になるだろう」と話している。

【江口一】